

様式第6号（第5条関係）

政務活動費実績報告書

平成29年5月22日

久慈市議会議長
中平 浩志 殿

会派名 市民共同
代表者名 高屋敷英則
事務局長 小倉 利之

政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により、次のとおり報告します。

使 途	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究費	<input type="checkbox"/> 研修費	<input type="checkbox"/> 広報費	<input type="checkbox"/> 広聴費	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動費
	<input type="checkbox"/> 会議費	<input type="checkbox"/> 資料作成費	<input type="checkbox"/> 資料購入費	<input type="checkbox"/> 人件費	<input type="checkbox"/> 事務所費
実施期間	平成29年5月8日(月)～5月10日(水)				
実施場所	沖縄県国頭郡今帰仁村				
参加者名	4名（高屋敷英則,畑中勇吉,宮澤憲司,小倉利之）				
実績額	325,045円				
内 容	<p style="text-align: center;">市民共同行政視察の目的及び研修内容</p> <p>1. 研修目的</p> <p>人口1万人弱の今帰仁村は観光立国として「人」「まち」「自然」「資源」の宝庫である。「子供たちにほこれる笑顔日本一」を目指す久慈市の喫緊の課題は人材育成と豊富な資源を活かした魅力の発信と地場産業の確立・地域づくりである。今帰仁村の生産人口は高齢人口の約2倍で推移している。また、転入者も転出者を上回る結果となっている。</p> <p>現在、久慈市では少子化対策と子育て支援、担い手の育成を眠っている観光資源をどのように活かすか待ったなしの課題である。</p> <p>沖縄地方は久慈市と「闘牛」繋がり、平成5年の大冷害時「岩手34号」のちの「かけはし」の恩恵で今の岩手の農業は繋がり、以来岩手と沖縄の交流が始まっています。那覇市から2時間かかる今帰仁村、決して立地的条件の良くない僻地村になぜ多くの若者が集まるのか、久慈市にとって学ぶべきものが多い村である。</p>				

内 容

2. 研修内容

2-1. 自主財源の確保について

今帰仁村の主な産業は第1次産業と第3次産業が主体である。近年は1～2次産業が微減傾向にあり3次産業が意気吹いている。主なサービス産業として観光や教育・医療福祉等に移行しつつある。



「アグー豚」生産を中心に発展してきた

挨拶をする今帰仁村議会 東恩納寛政 議長

今帰仁村だが今後の農業経営の実態と今後を見据えた農業の担い手の育成がカギを握っている。

自主財源の主となるものは、県から拠点産地の認定を受けたキク・マンゴー・スイカ・紅芋・アグー豚・黒毛和牛・クワンソウ・エノキダケ・エリンギなど特色のある農畜産物を生産している。

世界遺産今帰仁城跡は、遠く奄美大島、沖永良部島、与論島などといった奄美群島文化圏に取り組んだグスク時代の繁栄を象徴する建造物であり、現在はやんばる観光の拠点として海洋博記念公園など並び多くの観光客が訪れ賑わいを見せている。平成28年度の今帰仁城跡地への入場者数は30万人を超え入場料収入も1億700万円で10年間で1.7倍の収益となっている。この急速な伸びはグスク交流センターを整備し統一チケットにしたことが大きいということであった。現在入館者数の増大にキャパシティーが追いつかないということであった。

石野館長いわく、今帰仁城跡地や遺跡群の敷地内に博物館があり共通券を発見することで相乗効果が働き、収益が1.7倍になったということとであった。久慈市では出土した縄文遺跡が長内に、久慈琥珀や砂鉄資料館が出土した地域ではない発祥の地ではない地域の空き教室に保管されていることから観光に繋がっていないのではないかと感じた。市内の空き店舗や駅前整備の一端を担ってもいいのではないかと感じました。



・主な自主財源は前述した今帰仁城跡と人類発祥の伝説が受け継がれてきた古宇利島は神の島としてかつて若い男女が住んでいたといわれ、若い男女に人氣が高くウミガメとともに海水浴ができるクンジャーバマもあり通年にわたり賑わいを見せている。



ウミガメと海水浴が出来るクンジャーバマ



観光のメッカ 古宇利大橋

・自主財源は第一次産業の今帰仁ブランド農畜業に従事する人口 25%と観光立国としての観光業に携わる人口は圧倒的に多く 60%にも及ぶ。また、今帰仁村の地目別面積（固定資産税）を見れば水田はゼロ、山林もゼロ、畑と原野が 75%を占めていることも山地占有率 85%以上の久慈市とは大きな違いがある。

2-2、「今帰仁村うるおいと安らぎの村づくり応援寄付金」

これは、まさにふるさと納税であり平成 20 年にこのネーミングに改正し、事業区分として新条例①子ども子育て支援を追加したこと、またふるさと納税の委託料の問題解決をしたことである。これにより寄付者が増大した。

(事業区分)

改正後

- (1) 未来を担う子供の育成及び子育て支援に関する事業
- (2) 美しい自然環境の保全と地域資源を活かした観光村づくり及び地域産業の振興に関する事業
- (3) 世界遺産・今帰仁城跡の保全並びに教育、文化、スポーツ活動の充実に関する事業。
- (4) 健康で安らぎのある福祉のむらづくり並びに村民主体のむらづくり活動に関する事業
- (5) その他目的達成のために村長が必要と認める事業。

改正前の条項は、きわめて抽象的で、今帰仁村の条項であっても全国どこにもある条項であり、インパクトがない。改正後は枠内のように 1 番目に子育て支援、2 番目に観光産業・・・ということで条例を上位に位置づけたことも

あり納税者の目的税も条例に沿った結果となっている。

- ・現在の寄付金の状況。

平成 28 年度は 1 億 6 千万円、久慈市は 6 千万円足らずで今帰仁村の 40% 自主財源の歳入分は 50%、歳出は 50%であり歳出の内訳は、システム委託料 6 %、商工会への委託料 6 %、観光協会への委託料 6 %、商品代は 3 0 % 他送料等となっている。

実施事業の主なものは、寄付者の意向が主体で、ほぼ子供支援策に充当されている。

今帰仁村では、平成 20 年から「今帰仁村うるおいと安らぎのむらづくり応援寄附」として、ふるさと納税制度を開始している。

ふるさと納税サイトをオープンし、クレジット決済を開始したことで、納税者、納税金額も 15 日間で昨年度を大幅に超越している。全国で 2 位を誇るというから久慈市でも大手ネットサイト活用なども取り入れるべきと思います。

今帰仁ブランドの推進

本村には酒造所や、製糖工場、陶器工房などがあり、地元特産品の製造に力を注いでいます。地元でとれた新鮮な野菜や魚介類、果実、草花、肉などの加工品を直接購入することができる商業施設もあります。

村商工会内にある今帰仁ブランド協同組合が中心となり特産品のブランド化、6次産業化にも取り組んでいます。



美しき古里(今帰仁酒造)



たつみや菓子店



あいあいファーム



ゆめじん



黒糖づくり(共栄社)



北部製糖工場



金城アグー(金城ミート)

今帰仁村のブランド品

2-3, 闘牛大会の実施計画について

☆新春北部闘牛大会

- ・開催日時：1月1日 午後1時
- ・開催場所：今帰仁村営闘牛場
- ・主催：北部闘牛組合
- ・共催：琉球新報社
- ・後援：沖縄タイムス社
- ・入場料：大人男性 2,500 円、大人女性 2,000 円、中高生 1,000 円
- ・取組状況：別紙のとおり

※ 開始前に民謡ショーを実施。

☆ 今帰仁まつり闘牛大会

- ・開催日時：10時頃 午後3時
- ・開催場所：今帰仁村営闘牛場
- ・主催：今帰仁まつり実行委員会
- ・共催：琉球新報社
- ・後援：沖縄タイムス社
- ・入場料：無料
- ・取組状況：別紙のとおり

闘牛大会の実施計画について

(1) 現状と今後の課題

現在、闘牛大会は、年2回開催されております。近年、沖縄の伝統興行であった「闘牛」が地元の闘牛ファンのみならず県外観光客からも注目を浴びるようになっている。

観光の振興を図るにあたり、「闘牛」を観光資源として有効活用するため、大会回数の増や観光客を対象にした観光闘牛などの開催が課題となっている。

(2) イベントの開催と担い手の育成

現在のイベントの開催状況については、上記のとおり年2回の開催となっている。担い手の育成については、年々闘牛飼育者は減少傾向にあるが村として具体的な取り組みは行っていないとのことです。北部闘牛組合に大会の運営などは任せている状況。北部闘牛組合の組合員数は、20人程度。

(3) 闘牛を通じた交流事業

- ・平成26年度に航空会社と村観光協会が提携したバスツアーが計画され、村内観光施設や酒造所見学、闘牛の試合観戦などを実施し、体験型観

光の実施を試みるが参加者が確保できず、単年度限りで終了した事業。

・平成 27 年度に旅行会社と北部闘牛組合との連携により、ツアーに参加した観光客に闘牛の試合（解説付き）を見学してもらい、写真撮影などを行っていただいた。

今帰仁村や隣接のうるま市では、他に闘山羊も行われ、うるましの闘牛場はドーム型の会場があるということであった。

久慈市では闘牛大会の単独開催が不可能となっているが、今帰仁村やうるま市ではかつての賑わいがなくても、いまだに村単独開催ができるということから観光としても十分成り立っているし担い手の問題もあるが、今後も引き続き継続していくということである。



今帰仁村まつり闘牛大会で戦う牛

「村祭り」「文化祭」「健康祭り」が一体化し、多くの村民参加で開催される 10 月大会は 14 頭。また、1 月 1 日に行われる新春北部闘牛大会 20 頭は民謡ショウと抱き合わせた大会でやはり多くの村民で賑わいを見せている。

久慈市の闘牛大会は、ある個人の方の強い思いから今日の形となっており、今帰仁村のような組合はないかもしれませんが大きな大会になるにつれ組合の結成と継承について真剣に考えるべき時が来ている。

2-4, 台風の常襲による影響について

・飼育への影響、飼育用施設への被害状況は、特に影響はなし。飼育者の施設の被害状況については、村においては特に管理・把握は行っていない。

一般的にそれほど問題はないと聞いている。各飼育者の財産であり飼

育者が独自で管理し、村は介入していない。

- ・ 恒常化している年間復旧費について

村営闘牛場については、大会時に闘牛が待機する小屋などが老朽化し、台風などの被害で一部破損も見られるため、平成 29 年度村営闘牛場の改修を計画している。一括交付金事業において改修工事費 4 千万円の予算を組んでいる。年間の復旧費については、ベニヤ代や鉄柵溶接など、わずかな費用であるため大会費などで対応している状況である。

以上のような回答を頂きましたが、岩手県は山地に囲まれ急流河川が脆弱な地山やもろくなった岩肌を洗掘し大きな災害へと発展している。昨年の 8 月 30 日の台風 10 号の上陸で受けた当地方のイメージから考察すれば、沖縄地方は、台風の常襲地でもある。その対応について拝受したかったが肩透かしであった。

基礎地盤は堅固な石灰岩で形成されており斜面も安定している。墓地を見ても急斜面に構築されていることから土砂災害のない地方であること、災害に強い村であることが分かりました。前述したが今帰仁村は山地という地目がない、林道みたいな山道路を走っていても確かに崩落している箇所は 1 つカ所も確認されなかった。不思議でしたが現実でした。

2-5. 世界遺産 今帰仁遺跡の保全と活用



世界遺産の今帰仁城跡で記念撮影する市民共同のメンバー

役場内にて、説明を頂いた後我那覇事務局長さんのご案内で、「道の駅そーれ」までご案内いただき昼食をとり、その足で今帰仁城跡に向かった。午後は、時間を超えて今帰仁城跡、今帰仁村歴史文化センターをご案内いただき、ついでに、ビーチロックビレッジ・古宇利島まで船頭してくれました。

1. 世界遺産に選定された主な理由

2000年12月に『琉球王国のグスク及び関連遺産群』として世界遺産リストへ登録。

1) 史跡的特質（価値基準Ⅱ）

日本や中国、東南アジア諸国との交流によって築かれた琉球独自の文化として認められた。

2) 文化的特質（価値基準Ⅲ）

グスクが琉球社会の象徴的存在で住民の精神的拠り所で、琉球文化の重要な証拠として認定された。

3) 宗教的特質（価値基準Ⅳ）

琉球独自の信仰形態が今も行き続けている。

2. 保護システム

1) 行政的な保護

史跡を文化財保護法で保護/景観保全地区を村条例で保護

自然景観を国定公園法で保護/周知の遺跡を文化財保護法で保護

2) 住民の伝統的な保全への意識

3. 価値の管理は以下の通りである

1) 価値の維持

2) 発掘調査等による価値の再生

3) 石垣修理における価値の再生

4) 来訪者への正しい価値の伝達

4. 活用

1) 経済振興と観光振興

世界遺産登録後の観覧者数の増加

2) 文化振興

文化講座の開催、史跡巡り、発掘体験、ボランティア活動

行政分野→価値の維持管理

学問分野→価値の再生

住民分野→今帰仁遺跡から「学び」「楽しみ」「儲ける」

5. 今後の課題

- 1) オーバーユーズの問題
- 2) 来訪者へのバリアフリー
- 3) 石垣修理における技術継承
- 4) 景観保全地区の史跡指定
- 5) 景観の保全、回復、創出



今帰仁村歴史文化センター前の市民共同メンバー



今帰仁城主郭付近で玉城靖文化財係長から説明を聞く市民共同のメンバー

2-6, ビーチロックビレッジ

亜熱帯、沖縄の秘境。「自給自足」をテーマにしたネイチャービレッジ。石窯ピザが人気のカフェ、ツリーハウス、乗馬トレッキング、遊牧民テントなどの宿泊施設、体験型キャンプなど運営している。大自然の中で若者5人が大型連休の跡片付けや次のイベントに向けた準備作業を行っていた。

今帰仁城跡や歴史文化センターに多く時間を費やし予定時刻より少し遅れて入山しました。

ここではビーチロックビレッジ（株式会社アイランドプロジェクト）の代表取締役社長の新井章仁さんからの講話（聞き取り）を中心に報告します。

新井社長は大阪人、事務局の幸恵さんは宮城県人、他の3名についても沖縄ではなく久慈市で言うKターンの若者です。



ビーチロックビレッジの新井代表と市民共同のメンバー



←久慈市出身の女の子が作成した毛糸のコースターがあったかい。また、水がおいしい

まさに、このビーチロックビレッジは、よそ者・若者・ばか者だと、新井社長は言っていました。

4隊に分かれており、食料を調達する食料隊は畑や農園で野菜・紅芋、近くのムーミン牧場でアグー豚、ヤギ、黒毛和牛など飼育しゲストハウスや食堂でふるまう。

ゲスト隊は、一時的なパートやアルバイトとして短期に移住し精神静養したのちビーチロックビレッジを後にする。



食料隊のクック長と畑中議員



乗馬馬を飼育し観光客に乗馬体験を行っている

建築隊・アート隊はインフラ整備としてテント設営や小屋の補修、回廊の整備や遊歩道、展望所の建築や修復などを行う。



古宇利島が一望出来る見晴台



遊牧民風のテントは宿泊施設

建築隊を含め台風襲来時にはこれらのテントはすべて撤収するとのことです。今回は3張の内一張は撤収されていた。

これから夏に向けて、ミステリーキャンプや自給自足キャンプが行われるということです。18歳以上が対象ということですが親子同伴で参加は可能ということです。



見晴台と宮澤憲司議員



劇団の練習小屋、奥には大量の演劇の衣装が収納されていた

以上のように、ここをベースキャンプにキャンプ、ゲストハウス経営、乗馬体験、農場（アグー豚、ヤギ、牛、乗馬馬）を運営しながら本州から若者が集ってくるのだそうです。

活動エリアは、今帰仁村にとどまらず名護市の「まん丸市」やうるま市まで出かけて活動資金を調達している。代表の新井章仁さんも大阪の大学を卒業後映画製作会社に内定しているにも関わらず夢を追い「ビーチロックビレッジ」を立ち上げたとのこと。

久慈市の教育旅行とかなり似ているが、まったく違うところは行政が一切関わっていない事である。

若者の発想で山村の海の見える高地で自給自足をし、テレビもない情報も少ないところで自然体験をし、現代社会の雑踏から身を隠したような避暑地で、自分を見つめなおし、再生・更生して社会にカムバックするのだそうです。

ゲスト隊も年間20名くらい来訪し短期滞在していくとのことです。

ここ数年は、劇団の大阪公演から人気を博し、そちらにウエイトを置くということですが、コンセプト、原点を発足当時と変わりはないとのことでした。

われわれ市民共同は、たった2時間の滞在でしたので本当の良さはわからずに沖縄今帰仁村を後にしたわけだが、人類の発祥・原点ともいわれる今帰仁村そのものが観光立国として、見習うべきところが多くあるし若い人たちが生き生き・キラキラ輝いている印象を受けました。

おわりに

沖縄は異国情緒たっぷりですが中国文化と日本文化を混合する琉球独自の歴史を醸し出していました。何と云っても沖縄にしかない「沖縄時間」波の音のように静かに流れる時間が最高です。まちづくりのけん引や起業の成功の心得、担い手・リーダーの育成・・・すべてに共通することは「本気になること」「馬鹿になること」「いい仲間を持つこと」を教えてくださいました。若者・馬鹿者・よそ者の生きたお手本と真骨頂。

人類の発祥、人間の営みの原点である今帰仁城跡や古宇利島。

今回の行政視察では、今帰仁村議会事務局長の我那覇尚一様、文化財係長の玉城靖様、歴史文化センターの石野裕子館長、そしてビーチロックビレッジの新井章仁社長には時間がない所でたくさんの資料と貴重なご教示・案内を頂き大変感謝しております。特に、一日いっぱいお世話になりました我那覇局長、予定になかった古宇利大橋（延長1860m）は自分の釣りポイントとか。忘れませんよ。最後に食べたソフトクリームもごちそうさまでした。

すぐにできることは少ないわけですが、久慈市制の発展に少しでも寄与できるよう市民共同会派一同さらなる研鑽に努めたいと思います。



飛び立った飛行機から見た那覇市内



首里城の世界遺産

